

次号
特集不
整
脈
1

我々、総合内科医にとって、循環器疾患は苦手意識があります。多くの都市部の大病院では、内科は専門科の縦割りであり、総合内科研修中ですら、循環器疾患への曝露が少ないという印象があります。特に不整脈に関しては、第一に心電図に対し苦手意識をもち、「不整脈は循環器医にお任せ」となりがちではないでしょうか。

心房細動患者は、日本に80万人いるともいわれ、今後も増える予想されます。循環器専門医の数は、1.3万人です。この超高齢社会を乗り切るためには、総合内科医も循環器医の助けを適宜借りながら、ある程度（しかも、高くオリティで）心房細動診療にあたっていくことが求められます。

今回は、さまざまなトピックスがある不整脈を2回の特集に分けることにしました。Part 1の次号では主に「上室性不整脈」を扱います。Part 2では「心室性不整脈、徐脈性不整脈」を扱う予定です。総合内科医はさまざまな場面で働くことを求められます。循環器医が常駐する病院、常駐しない病院、内科クリニック、救急室、集中治療室など、すべての場面で不整脈診療にあたるジェネラリストに、少しでもお役に立つものが提供できれば幸いです。

第1章 心房細動総論：疫学、リスク因子、病態、分類、症状、合併症について

【コラム1】総合内科医に求められる心房細動治療の包括的マネジメント

第2章 心房細動治療①：レートコントロール vs. リズムコントロール

【コラム2】心房細動：アブレーションに関して総合内科医が知っておくべきこと

【ミニコラム1】心房細動治療：抗不整脈薬で慢性維持治療中、抗不整脈を中止することを考慮するタイミングは？

【ミニコラム2】心房細動合併の慢性心不全患者は全例アブレーションをすべきか？

【コラム3】心房細動における除細動

第3章 心房細動治療②：抗凝固療法

【コラム4】高齢者の抗凝固療法の注意点

【コラム5】一過性心房細動は塞栓症のリスクになるか？

【ミニコラム3】弁膜症性心房細動とは何か？ これを分ける臨床的意義は？

【コラム6】心房細動に対するカテーテルによる左心耳閉鎖術後は完全に抗血栓薬は不要か？

【ミニコラム4】心房細動を有する透析患者の抗凝固療法は結局どのようにすればよいのか？

第4章 抗不整脈薬総論

【コラム7】さまざまな不整脈モニター

第5章 心房粗動

【ミニコラム5】Ic, Iaによる心房粗動とは？

【コラム8】心房頻拍：Atrial tachycardia

第6章 頻脈性不整脈：Narrow QRS tachycardiaをみたら

第7章 発作性上室頻拍症：房室回帰性リエントリー性頻拍

第8章 Wolff-Parkinson-White (WPW) 症候群

【ミニコラム6】無症状WPW症候群を見つけたら全例不整脈専門医に紹介すべきか？

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

No.1 呼吸器疾患1

No.2 外来における予防医療

No.3 循環器疾患1

No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

No.1 代謝内分泌

No.2 周術期マネジメント

No.3 腫瘍

No.4 他科の知識1

■ Vol.5 (2017年)

No.1 神経内科

No.2 呼吸器疾患2

No.3 感染症2

No.4 老年科

■ Vol.6 (2018年)

No.1 腎疾患2

No.2 糖尿病

No.3 肝胆脾

No.4 心不全

■ Vol.7 (2019年)

No.1 外来マネジメント

No.2 総合内科のための集中治療

No.3 抗血栓薬、抗凝固薬のすべて

No.4 内科エマージェンシー

■ Vol.8 (2020年)

No.1 アレルギー

No.2 画像診断①胸部・縦隔編

No.3 手技

No.4 病棟管理

■ Vol.9 (2021年)

No.1 膠原病2

No.2 内分泌疾患2

No.3 不整脈1：上室性不整脈

最初の打ち合わせから足かけ4年。毎回の対談収録は、まるで特別講義を目の前で聴いているかのよう。しかし20回あまりの収録を素材に文字原稿に起こしてからが長い道のりでした。対話での、聞き手がいる話し言葉の自然さ、それを文字で読む読者の頭のなかに定着する響き、一番大事な、誤解を与えず正確であること。油断すると、言葉は文字としてまとまらなくなります。著者の先生方の探究の記録となった『終末期ディスカッション』が好評です。同様に患者さんに寄り添う、『慢性疾患のセルフマネジメント』に関する翻訳書も近日刊行予定となっております。患者さんの目線に立つときに頼りになるのは患者さん自身の言葉なのではないか。患者さん向けの原書の翻訳の意義は確かにあるものと信じます。さて、お待たせして誠に申し訳ございません。目次が3ページになったのは初。引き続き、本誌でしか読めないものを創り、刊行遅れを取り戻すべく取り組んで参ります。

● 広告一覧

JHospitalist Network...274

医学書院...330, 388

医書ジェービー...436

南山堂...294

日本医事新報社...346

日本医書出版協会...416

Vol.9 No.2 2021年12月22日発行

Hospitalist

(1部) 定価：本体4,600円＋税

ISBN 978-4-8157-2002-5

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161
広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980
日本医学広告社 電話03-5226-2791
文京メディカル 電話03-3817-8036
福田商店広告部 電話06-6231-2773

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為（複写、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的（診療、研究活動を含む）で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。